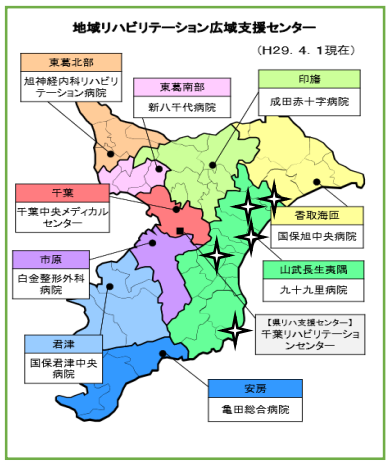
「地域ケア会議への新たな試み」

芝井孝祐（医療法人社団慈優会 九十九里病院）

地域ケア会議への関わり

平成２９年４月に山武長生夷隅地域リハビリテーション広域支援センターの指定を受け、地域リハビリテーション推進のため、「顔の見える関係づくり」からはじめた。そこから、市町村とのつながりが生まれ、地域ケア会議へ助言者としての参加やリハビリ専門職派遣についての相談等を受けるようになる。
現在までに圏域内５市町の地域ケア会議へ参加してきた。
以下、地域ケア会議へ助言者として参加して、新たな社会資源の創出へつながった経緯について報告する。



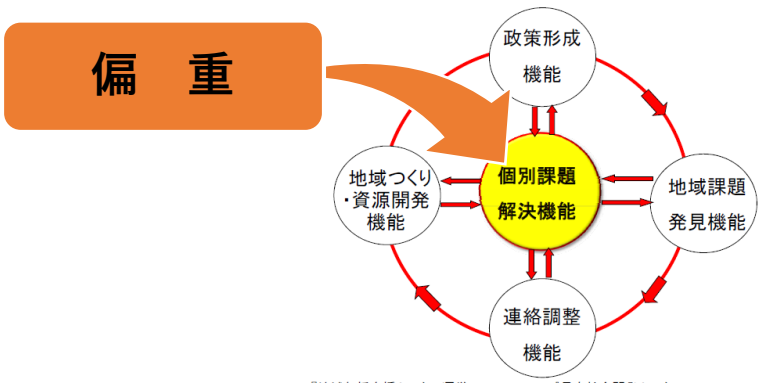
地域ケア会議について

地域ケア会議は、高齢者個人に対する支援の充実と、それを支える社会基盤の整備とを同時に進めていく、地域包括ケアシステムの実現に向けた手法。

助言者としての関わりのなかで

地域ケア個別会議へ助言者として参加させていただくなかで、「この会議でなんとか個別課題を解決しなければいけない。」といった変な使命感に駆り立てられ、地域課題や地域づくりといった視点での助言ができていなかった。

高齢者のQOL向上のためには、高齢者を支えている地域づくりの視点が必要となるといった本来の地域ケア会議の目的を見失っていた。



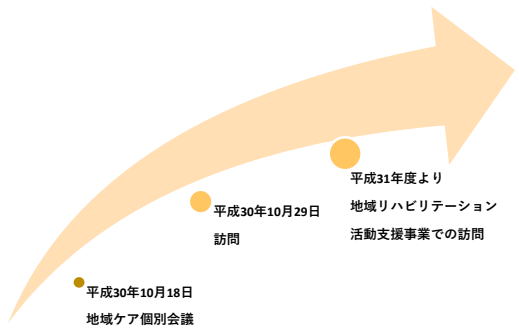
『地域包括支援センター運営マニュアル2012』長寿社会開発センター P27

ある地域ケア個別会議から

地域ケア個別会議において「この方には１度、リハビリテーション専門職がご自宅に訪問して環境の評価を行い、負担のかからない動作方法についてアドバイスをすることができないでしょうか。」と助言をしたところ、すぐに先方へアポイントをとり約１０日後に訪問が実現した。

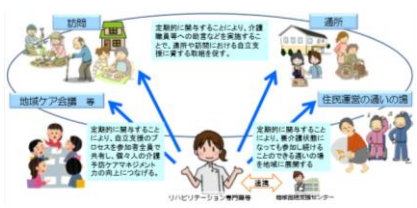
行政からこのような訪問を事業展開していきたいとリハビリテーション専門職の派遣について打診を受け、承諾すると来年度から地域リハビリテーション活動支援事業での訪問について予算建てが行われ、展開していく運びとなった。

今後は、ケアマネージャーさんと同行訪問して一緒にアセスメントを行ったり、住宅改修や福祉用具の適用などについてアドバイスができることとなる。



考察

今回は、リハビリテーション専門職と行政とのつながりがあったことにより新たな社会資源を創造できたと考える。
人と人、人と地域、人と社会資源、様々なつながりの構築が地域包括ケアシステムの実現に向けて必要になると考える。
地域リハビリテーション活動支援事業においてもつながりを持つことが重要であると言われている。
つながることは、地域リハビリテーションの理念に通じるものと考える。



出典：介護予防・日常生活支援総合事業ガイドライン(概要)　厚生労働省老健局振興課

九十九里病院 DATA

病床数：一般病棟【49床】
回復期病棟【50床】
地域包括ケア病棟【24床】
療養病棟【24床】特殊疾患病棟【50床】
リハビリテーション科
理学療法士【26名】作業療法士【8名】言語聴覚士【5名】
助手【2名】介護福祉士【2名】　マッサージ師【1名】
リハビリテーション科理念：
「いつまでも元気に暮らせる町づくり」